

松深會 かむらびん

本年度の松深會は「子供神輿」のお手伝いを見せて頂きました。前日のタル御輿を持ち込んで入場した後、多勢の子供と次世代の子供達が神輿に興味を持ってくれればと祈りつつ遊ばせて戴きました。こちらからのお言葉も頂きました。十八名の参加でした。

■縄手祭り

八月三日(日)あ組小頭新井滋君の手引き等により珍しく暑くなつた縄手商店街を「タル御輿」をもって渡御となりました。多少狭苦しい思いはしたものの御祝儀等も戴き「四柱神社」さんには神事も受け楽しく五十余名の人員が無事担当しました。来年も声がかかり気を良くしたもので翌日には護国神社の「みたま祭り」の一環で神道青年会主催の

■サイトウキネン バレード

―万燈神輿完成神事―
は午前六時三十分中止決定の報を執行委員会より受け全員残念の上なく、とりあえず神事を行えた事は一番喜びだったと言えます。雨天マニュアルの重さを痛感しました、と共に我が万燈神輿の大きさにも感激した日でありました。これを機により一層担当に磨きをかけて行きたいものです。
組頭 百瀬



■宮頭に聞く

今回は松深會としてもメインの年間事業である深志神社例大祭について宮頭の萩原章史氏にインタビューを試みました。

(編集部) 江戸前を取り入れた理由は何故ですか？

(宮頭萩原) 「菅公御正忌一〇〇年祭」と「町内みこし」の参加を機に、松本で見ている人も楽しめる、活気のある神輿をやってみたかった。個人的に、自分の想いは、仕事・家庭も全部含めた形で担ぐのが江戸前のスタイルと想っている。

(編) 神社側と祭りについて話し合いを始めたのはいつ頃からですか？

(萩) 一月末からスタートしていました。

(編) 神社を含め各方面と交渉する面で大変だったことは？

(萩) 神社さんと氏子さんに、京都の巡行形で続けてきた足運びを江戸前に変えて良いのかという点。またそれを認めてもらうことでした。

(編) 五十年振りに人の手で担ぎ上げた事について、どう思いますか？

(萩) 氏子さんのエリアが広がっていい

たが、神輿という伝統的な物を、どうかして人の手で担がないものか？と思っていた。その神輿を担がしてもらえた事に感謝しています。いずれは五十年前の姿に戻せればと思っています。

(編) 地元の祭りを自分達だけで行おうと思つたのはなぜ？ 終つてみてどう思つたでしょうか？

(萩) 県内の神輿睦会の人たちと知り合い、地元の人たちは地元の神輿は地元の人が担ぎ上げましたよ。うと言われた。子供の時に見た祭りを埋もれさせたくなかつたですね。

(編) 県内唯一の2基の神輿を一人でコントロールする宮頭としての感想は？

(萩) 一担ぎ屋になりたかつたが、宮頭にたつてオーケストラの指揮者の気持ちいい気持ちはよくわかります。

ね。宮入の時、2基の神輿が一緒にはばいた。言葉に出来な味わい。

(編) 萬燈神輿を作るにあつたの、意気込みとその



意味合いは？

(萩) 松本には萬燈神輿が無いこと、すなわち色々なイベントに参加して地域の人々と一緒に、景気回復、そして地域の活性化に貢献する一助となれば幸せだと思つています。

(編) ありがとうございます。

今後大役を一つ一つ意気込みが前めりにならず着実に皆で実力をつけて行きますように。

【編集後記】

私達広報部も満足な活動が出来ず本年は手探りのまま年度末最終号であります。平成十六年度は体制を作り直し会員の皆様にもボリュームのある情報提供が出来る様努力を致します。

組頭 百瀬

